

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	令和3年度第1回姫路市立総合教育センター運営協議会
2 開催日時	令和3年7月16日（水曜日）14時30分～16時30分
3 開催場所	総合教育センター 3階 講義室
4 出席者又は欠席者名	<p>（出席者）加治佐委員、井上委員、中島委員、溝口委員、 白井委員、本多委員、永浦委員、平山委員、 三谷委員、森委員、中川委員</p> <p>（事務局）総合教育センター 谷田所長、八木副所長 教育研修課 西川課長、北村係長、湊係長、藪上係長 育成支援課 藤戸課長、福島係長、南原係長</p>
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6 議題又は案件及び結論等	<p>1 令和2年度事業の取組状況について</p> <p>2 令和3年度事業について</p>
7 会議の全部内容又は進行記録	別紙参照

開会

総合教育センター所長挨拶

委員及び事務局紹介、定足数報告

「姫路市立総合教育センターの概要について」説明

「令和2年度事業の取組状況について」説明

委員：学校からタブレットを持ち帰って学習を行う効果、また、勉強だけではなく他の事に使うようなことがないように予防措置がちゃんとできているかどうかをお聞きしたい。

事務局：先生は、普段からできるだけタブレットを使用するように取り組んでいます。子供たちにはキーボードを速く打ったり、調べたり勉強に役立てたりする力がついてきているので、これを止めないために、この夏休みは、小学校の5年生以上中学校3年生まで、各家庭に持ち帰って、学習に活かしていこうとしています。ただし、Wi-Fi環境、ネット環境がない家庭があります。Chromebookは基本的には、ネットに繋がる環境がないと、できることがある程度限られますので、この夏に関しては、各小学校中学校ともに、ネットに繋いでも繋がなくてもできる課題を出して、情報活用能力を継続させていくという目的で今準備しています。

変なところにアクセスするんじゃないかとか、夜中中やってるんじゃないかという心配については、フィルタがかかっている、基本的には有害なものを見ることはできない設定にしています。また、夜11時以降になると、インターネットの制限をより厳しくして、普通の検索もできなくなるという対応をしています。この夏、持帰りで、いろんな問題点、課題が出てくると思いますので、しっかりと対応していきたいと考えています。

会長：1人1台に、今年度からなったわけですが、昨年度の、教員がICTを活用したかどうかの比率が、小学校の方が高くて中学校が低い。89.4%と80%ということで、約10%の違いがあるわけですね。それでもかなり高いですけどね。今年度、中学校の先生に対して、特に何か対策を講じておられますか。

事務局：小学校の方が高くて中学校の方が低いのは、おそらく小学校の先生は、いろんな時間を1人の担任の先生と専科の先生で持っていますので、何かしらの時間に、タブレットを使うことが多いのかと思います。中学校の場合は、教科がありますので、どうしても活用がしやすい教科としにくい教科があるのかなと思います。また、中学校の場合は、教科の先生、それを補助する先生とたくさんの先生がいますので、そのあたりも、割合が低い理由ではないかと分析しています。昨年度と比べると、今年はいろんな学校で活用を推進していますので、活用率は大分上がっていると思っています。

委員：研修の中で演習がしづらかったということは課題だという評価がありましたが、その辺りの、今後の対策などは考えておられるのかどうか、詳しく教えてください。

事務局：昨年度、オンライン研修をたくさんすることになりました。講師の話を聞いて知識を得る研修は問題ないのですが、実際に先生が、これについてどう思いますかと参加者とやりとりをしたな

がら進めたり、参加者からの質問を聞いて受け答えしたりというのは、オンラインの研修ではやりにくい。また、近くの人とちょっと相談するとか、意見交換するという研修、演習を取り入れた研修を多く実施しているのですが、オンラインでは、そのあたりができず、どうしても聞くだけになってしまうということが今課題になっているということでここに挙げています。

委員：確かに知識の獲得には良いと思いますが、双方向性が持ちづらいという点で、先生方の満足度はどうなのかなと思いましたので、そのあたりのこれからの工夫を考えていく必要があるのかなと思いました。

「令和3年度事業について」説明

会長：29ページ、政策1-施策6の特別支援教育の推進の指標項目のところですが、この事業が令和2年度から3年度にかけて大きく変わってるわけではないですよ。特別支援教育の充実のところは力を入れている感じがしますが、事業の種類は変わっていない。そういう中で、実績値はあまり高くないという評価だと思いますが、令和3年度の目標値がかなり意欲的です。大変結構なことだと思いますが、理由はありますか。大丈夫なのかという気もしますが、いかがでしょう。

事務局：意欲を買っていただいて恐縮ですが、姫路市教育振興基本計画で、令和6年度の目標値を設定しておりますので、そこに向かって、少しでも毎年上がっていけばいいとは思っていますが、本当に一生懸命取り組んでいくという思いの表われととらえていただけるとありがたいのですが、目標を高く上げることで、しっかりとやっていかなくってという意識を持って取り組みたいと思っています。

会長：これは、この事業に関わった先生方が評価するということですね。非常に意欲的ということで、大変結構だと思います。

委員：非行防止活動の推進のところ。ネットトラブルの対策講座、薬物乱用防止、これも大事です。それから白ポスト、有害図書などを駆除していくということです。環境浄化ですね。もう一つ大事なのは、今、目に見えない問題行動、非行がありますが、やはり少年の健全育成は、街頭補導が基本です。それで、街頭補導の充実、やり方を変えるとか、この辺も一つのスローガンに上げていただきたいと思います。

事務局：基本的なところで、街頭補導活動は続けていかなくってはいけないと認識していますので、工夫をしながら、時代の流れに沿ったものになるように関係諸機関と連携しながら考えていきたいと思っています。

委員：教員研修や教育相談に関する研修を充実させて努力されている様子がすごく伝わってきています。一方、気になることとして、ICT推進はもちろん非常に大事なことで、まだ充実していないところをこれからどんどん充実させていくということは必要なことだと思いますが、そのICTの負の側面といいますか、教育上の負の側面、例えばインターネット依存であるとか、或いは視力が低下するとか、運動不足になるといった問題に対しての、教育的対策といったものなども、もう少し織り込んでいいのかなという点が気になりました。

もう1点は、コロナ禍の影響というものが伝わらなかった。コロナ禍で、例えば経済的困難と

か、家庭の事情の子供たちへの影響、それから感染予防対策による閉塞感とか、コロナ禍の子供たちの困った状況が伝わらなかったのも、そういう現状を踏まえた取組はされているのかが気になった点です。この2点です。

事務局：ICTを使うことよっての悪影響については、十分考えています。この夏に持ち帰るにあたって、もう一度、端末利用のルールを、子供と家庭が一緒に読んで、端末を夏休みはこういうふうにするということを確認する文書を作って、全保護者に配付しました。それを読んでいただいて、保護者本人から、確認のサインをしてもらうような形をとっています。まずは、そういうルールを基にするということ、夜は繋がらないとか、規制がかかっているというようなことを、学校からしっかりと子供たち、保護者に伝えて、使い方のルールを子供たちに身につけたいと思っています。悪い使い方や間違った使い方をしている子供たちが出てくるのも当然考えられますが、そうなった時はどうするか、この夏の実証を踏まえて対策をとっていきたいと思っています。

もう1点の子供たちへのコロナ禍による影響ですが、子供たちは、自分の置かれている状況の中で精一杯できることを頑張ってくれていると思います。先生方も、できないと諦めるのではなく、いろんなアイデアを出して、教育活動に取り組んでいると思います。

委員：インターネットの利用は、コロナということもあって、便利で普及が必要だけど、心配があるというのは、先生方もおうちの方も、すごく気にされているところなのかなあと聞いていました。実際に大学でゲームに関する研究をしていると、不思議なのが、小学生は、ネットゲームをしないの方が適応が悪い。やるのが当たり前になっていて、例えば、昔、何々を持っていないと遊べないとか野球できないと遊べなかったのと一緒で、子供たちはゲームができないと適応できないという状態になっているというのが、アンケートでわかるんですね。友達とオンラインゲームをするという子の方がしないという子よりも学校適応がいいんですよ。逆に言うとゲームが下手だったら友達同士ついていけない、ICT機器が使えないと友達の輪に入れないという部分もあったりして、規制規制というのも難しいなあと感じているところなんです。自己肯定感、自分ができることがあるとか、友達への信頼感とか、そういったものがすごく低い子は依存に陥りやすいのではないかと仮説が出ているので、機器の整備と一緒に、学校では、いつもどおりに、友達関係とか、自分ができると、楽しいと思えるようなものがあれば、きっと大丈夫だろうという期待があるのと、今までどおり、その部分を一人一人の先生が大事にもらえたらすごくいいというのが、心理士としての願いです。何か協力できることがあれば、学校とか教育の分野に力添えできればと思いますので、一緒にこれからの時代をどうしていくかというのを考えられたらいいなと思います。

事務局：ありがとうございます。この夏にタブレットを持ち帰ることで、そういう、ゲーム依存の子などが増えるのではないかと心配は、当然しております。ですので、フィルターを強くかけて、よくないゲームはできない設定にしていますが、この夏休み期間中の状況を見て、さらに対応していこうと考えています。

委員：やっぱりICTへの関心が高いので、皆さんのご意見もこういうところが多いなあと聞いていました。特にコロナが始まってから、この1年少しの間で社会が変わってきていると思います。オンライン化が進み、中小企業でも、ICTを使えないと会議もできませんし、取引に関しても、

出張はせずにオンラインで相談をというのが当たり前になりつつあるという状況です。子供たちにこういう端末が用意される、先生方も研修を受ける、と、順次整っていくのがすごくいいことだと感じています。

商工会議所でも少し調査をしているのですが、SDGsの話に関しても、この1年ぐらいの間に、言葉は聞いたことがあるというふうになってきています。今までは、大企業が取り組んでいくもので、中小企業には関係ないということだったのですが、やっぱりそこも価値観が少し変わりつつあるのかなと。子供たちは学校で環境に関すること、SDGsに関することを、科目として学んでいる部分もあると聞いていますので、こういったことが続いていくと、価値観が変わっていきだろうなど。商工会議所では、将来の人財として今の生徒たちがいると考えていて、大学進学を機に姫路を離れる、地域を離れる前に、地元の情報を上手く伝えることができないかと考えています。生徒だけではなく先生にも保護者にも知っていただいて、一旦大学で離れても、やっぱり姫路がいいと感じるための情報として、地元の企業が取り組んでいることを発信していきたいと考えています。例えば工場見学ができると、子供たちは関心を持って参加するだろうと思いますが、わかりづらいところもあると思いますので、先生方や保護者の方に情報を届けることも、考えたいと思っています。先生方の研修に、地元の会社関係を、カリキュラムに入れることも検討いただけないかなと考えていました。

事務局：初任者研修とか中堅教諭研修の中に、社会体験研修という、教員が、社会施設に行つて、研修するというのがありますが、限られた場所にしか今のところは行っていません。いろんなところに教師が出向いて学んだことを子供たちに還元すると、それが子供たちの新たな発見に繋がっていくと思いますので、来年度、社会教育施設の研修のところで、ご意見をいただけたら、活かせるのではないかと思います。

委員：中学校3年生の子供がいます、パソコンを持って帰ってきました。改めて子供と、なぜパソコンを夏休みに持って帰るのかということをお話したいと思います。

周りに、養護施設に行かれています方がいたのですが、養護学校に在籍している間は充実していたと思いますが、そのあと、卒業して、ちょっと忘れられたような存在になって。仕事も、簡単なことをというふうに、何か、社会が勝手に作ってしまっているように感じる場面がありました。本当は何をしたいのかということをお考え、できないというのは、その次だと思つので、本当に弱者を最後まで見守っていくことも必要じゃないかと思います。

事務局：本当に大事な視点だと思います。仕事のこと、仕事以外でも、地域ですつと一緒に育っていくという視点で見つていくと、やはり今は、縦割りといいますか、就学前は保育所、それから教育委員会では義務教育の段階という、管轄があります。おっしゃるように、卒業してからとか就労してからとか、その子の一生で、どうつ支援が必要なのか、どうつ繋がりをしていけばいいのかを、連携を密にしながら、何かできないかということ、教育委員会としても感じているところです。

委員：幼稚園も、ICTの環境を整えるということで、ネットワークの環境整備も挙げていただいて、来年はここに来なくても、園でこういうことができるようになるのかなと楽しみにしています。幼稚園は、現体験を大切にしてお教育をしています。においとか触つたりとか、聞いたり感じたりという体験をいっぱいさせてやりながら、感性を育てていきたいと思っています。その中でど

うICTを取り入れていけば、これから育っていく子供たちの役に立つのか考えているところです。例えば体験のできないようなことを子供達に見せてやったり、聞かせてやったり、そういうことはできるのかなど、考えながら進めているところです。

特別支援ですが、幼稚園も支援のいる子供たちが増えてきていて、クラスの運営が難しくなるぐらい困っている園が出てきている状況です。育成支援課の特別支援推進事業を、幼稚園もいろいろ活用できる場所があると思いますので、その辺りをもう少し教えていただければと思いました。

事務局：育成支援課が担っている業務が、すべて、特別支援推進事業ととらえていただけたらと思います。特に、推進員を活用して学校訪問をしたり、階段昇降機の貸出をしたり、も含めて、とらえていただけたらと思います。

委員：去年、学校が一斉休校になりました。6月に子供たちが登校した時に、高学年中心に、ネットトラブルに巻き込まれていることを実感しました。このままではいけないということで、すぐに育成支援課に連絡しまして、ネットトラブル、ネットモラルの講座を、6年生対象に利用しました。素早く対応していただき、本当にありがたいです。

研修課の方では、今までは、各学校1名という形で、集合する研修が多かったと思いますが、オンライン研修が増えてきたために、動画配信でたくさんの先生が見られるようになっていきます。本当にいいことだと思いますが、なかなか小学校の教員は放課後に時間の余裕がなく、見たいという思いはありながらも、時間が取れないというのが現状ではないかと思います。長期休業中に、時間がある時にまとめて、そういう研修を受けられる機会なんかも持てたらいいと思っています。

ICTのことがすごく出ていましたが、小学校校長会では、どこかの学校が飛び出て事業を推進するのではなく、姫路市全体の小学校が同じ水準で同じ歩調で進めていくというところに力点を置いています。

今回初めて、持帰りの事業を行いますが、その前に、学校でも必ずネットモラル、情報モラルについて学習しましょうという委員会からの指示があります。本校での様子を少し紹介します。低学年では、公園の使い方の場面の絵を見て、話し合いを進めていました。公園で、ベンチに座って一生懸命ゲームをやっている子供たちの様子が映し出されていました。子供たちがその絵を見て、誰にも迷惑かけていないから大丈夫という意見と、いやいやせっかく公園に来ているのだから、ゲームをするのではなく遊ばばいいのよという意見が出て、お互いに意見を闘わせていたのが印象に残っています。中学年では、先ほどお話があったように、びっくりするほど、子供たちは毎日ゲームをしています。半数以上の子供が、もう毎日しているのが当たり前というのが現状でした。ただ、今は、親御さんの見守り設定というのがあるので、それを使っている家庭も多いということもわかりました。

研修課の事業、育成支援課の事業を上手に使いながら、職員の資質も高めていき、子供たちの学びも解決していきたいと思っています。

事務局：研修のことで、夏休みとか、時間のある時にまとめて見ることはできないかという意見がありました。通常は1週間とか10日程度配信を続けていますが、これは、講師に了解を得て行っています。今後は、夏休みの期間に配信してもいいかということも、講師に尋ねて対応できるように、頑張っていきたいと思っています。

会 長:2週間とかぐらいだったらVODにならないですよ、オンデマンド。それは結局、著作権の問題とか講師の了解の問題ですか。

事務局:講師に、1週間放映させてもらいますというような了解は得ています。だから講師との最終確認と思っています。

会 長:もうちょっと長くてもいいという気がしますね。せっかくですからね。講師の方も、1週間でも1か月でも何も関係ないような気がします。ぜひ言ってみてください。

委 員:コロナの影響で、やはり、昨年度は、ゲームの時間がすごく増えた子供が多く、本校でも視力の低下が著しいと、眼科の校医先生に指摘を受けました。ですので、夏休みのタブレットの持ち帰りも、その使用について、気をつけていかなければならないと思っています。それから、中学校に入ると、ネットトラブルが非常に多い。中学校では、複数の小学校が一緒になるので、そこで一気に人間関係が広がります。ラインのグループを作って、そこでいじめが起こってしまうということがありました。そういった意味で、小学校でのネットトラブルに対する教室が必要かなと思います。そうすると、中学校に入って再度、ネットトラブルに関する教室を開いた際に、もっとよくわかると思います。

中学校でも、今年度からICTの推進校には推進員がついて、タブレット等を使ってすごく活性化した授業が行えていると聞いていますので、他の学校にも、少しの日数でも、推進員が、巡回等で来てもらえるとうれしいと思っています。

事務局:2学期からICT支援員を現在の7名から20名に増やします。小中学校に、2週間に1回程度、支援員が定期巡回をして、授業支援や校内研修の手伝いをする計画です。また、こんなことをしたいというようなことがあれば、訪問支援という形で、都合が合えば、支援員が伺って、支援できると思いますので、利用願えたらと思っています。

事務局:令和2年度は、小学校で12回、中学校で15回の講座の申し込みが育成支援課にありました。他にも、企業とか警察でも講座を開いていますので、おおよそ、どこの学校でもされているかなと思います。急な依頼でも承りますので、その都度連絡をいただけたらと思います。呼びかけももちろん行っていきます。

委 員:教育の情報化の推進にあたって、どのように教育を進めていくのかということを教育委員会では考えていると思いますし、学校も、学校長は何ができるのかということを考えなければならないと思っています。

本校は重度身体障害児がたくさんいる学校です。このコロナの中で、例えばデイサービスに行けないなど、様々なことがあり、そういうことが心に影響を及ぼして体調を崩しているのが見て取れる状況があります。通常の小中学校の児童生徒であれば、もっといろんなことに影響されて、保護者のことや、学校での生活のしにくさのようなどころにも表れているのではないかと推察します。

本校には分教室があります。分教室では、看護師さんや専門の先生の協力のもと、授業を担当していますが、非常に子供たちの適応も良く、それぞれ自分の課題に向かって一生懸命頑張っているのが、あとは、子供の回復具合を見ていただいて各学校に返してもらっていると思います。帰ってからどうするのかという問題は、育成支援課、病院としっかりと連携しながら進めていかなければならないと考えています。

いろいろ相談するツールというのが、なかなか先生には活用しにくいところがあって、ニーズとしては、教育委員会などの公的な機関がすることと、他の方がすることとの間ぐらいのところに必要性を感じています。心理士の先生方のところで直接話が聞けたり、指導を仰げたり、話し相手になってもらえたりというようなことが、子供たち、或いは先生にも必要ではないかということを感じます。

事務局：この夏、タブレットを持ち帰って、いろんな問題が起きてくると考えています。その問題を解決しながら教育を進めていきたいというのが、今の委員会の考え方です。正しく情報を使えるような子供たちに育つように支援していけたらと思っています。

委員：書写養護学校の先生方には本当に病気や特性を踏まえた上で子供たちの支援をして、すごく自信を持たせていただいていることを本当に感謝しています。

医療の現場での状況をお伝えしたいと思います。児童病棟を立ち上げて1年少し経ちました。日々の診療の中でもコロナ系は、やはり長期休校になって、ネット依存になって不登校になって、その中で、家庭内暴力とかが出て医療に繋がった子がとても多かったという現状があります。今現在病院で預かっている子も、上手なネットやタブレット、ゲームとの付き合いができなくて、家庭不適應や学校不登校になっている子が少なくありません。今日も、夏休みにタブレットを持ち帰らせる希望をしますか或いは、そうではないかどちらに丸をつけたらいいですかというのを、診察の場で親御さんに聞かれました。もともとがうまくつき合えていない子供たちでもありますので、この辺は慎重に、他の要素を見ながら判断してアドバイスをしています。特に、夏休みにタブレットを持ち帰るとするのは、長期休みというだけでもとても生活が乱れる危険性がある上に、コロナがある状況なので、親御さんたちにとってはやっぱり心配なところだとは思っています。なので、入院した子には、先ほどおっしゃったようなネットトラブルもありますが、割合としてはゲーム依存から引きこもって、家庭内で逸脱行動に出るような子が多いので、その辺の心理教育、ゲーム依存とか、ネット依存の心理教育を行っています。その辺の心理教育は、広く、教育現場でもいきわたるといいというのが実感です。この度のタブレットを持ち帰るか否かにあたって作成された用紙は、よくできているなあと思いました。ただ、多分読める子もいれば読めない子もいると思いますので、先生方から、配布だけではないような教育指導があると良いと願っています。

事務局：ルールについては、他市町とも連携をとりながら、姫路なりのスタイルに仕上げたものです。その中には、正しい使い方をしない場合は、取り上げます、こちらの方で預かりますという文言もあったと思いますので、学校と協力しながら、うまく進められたらなと思っています。

会長：28ページ、施策の2に指標項目があって、3つめの指標が、新しい評価項目ですね。「パソコンを使って調べたり、発表したり交流したりドリル学習に取り組んだりすることが楽しいと答える児童生徒の割合」ですね。この、「楽しい」というのがいいのかどうかということです。「楽しい」というのを、小学生中学生に何か質問項目で聞くのだと思いますが、どういう表現で聞くのかということです。そしてもうひとつ、よもや紙で聞くのではないですよね。1人1台のタブレットを使うわけですよね。ものすごい数の小中学生だと思いますね、姫路市では。それをどうされるかっていうことです。先ほど言いました質問項目に戻りますと、小学生はともかく中学生に「楽しい」は、ちょっと違うのではないかという気がします。「楽しい」というのが

意欲のもとなので、これによって意欲が高まったということは言えると思いますが、子供に聞くにはふさわしくない表現ですが、「効率的に学べるようになった」とか、「自分の課題が解決できるようになった」とか、何か、役に立つようになったというような表現にした方がいいのかなと思うのですが。せっかくやられるのであれば、ちょっとまた考えていただければということですね。

事務局：この質問項目は、児童生徒の意識調査で、4年生か5年生以上の子供たちが回答する。今までは1人1台ではなかったのでパソコンルームで回答して、そのデータを委員会に送ってもらう形になっていたと思います。姫路の子供たちは多いということでしたが、タブレットを使って回答すれば、すぐに集約できますので、そのような形で行います。「楽しい」を変えることについては、委員会の方で、どういう言葉がいいのかも含めて検討していきたいと思います。

会長：よろしくお願いします。

会長：今日も指摘があったように、新しいことをすると必ず、問題が起こってきますので、それにも当然、しっかり対応していくということが必要です。いずれにしろ、非常に意欲的な目標を示されましたので、大いに期待したいと思っています。

閉会